

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2月7日～2月13日)

2022年3月11日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ベラルーシ・米国両国軍参謀総長の電話会談(2/10)
- 高官人事の発表(農業・食糧大臣、教育大臣)(2/10)
- 国家統計委員会、1月時点の年間インフレ率が10%と発表(2/10)

【ルカシェンコ大統領動静】

●安全保障会議の会合

大統領は要旨以下を述べた。

・昨日、露政府が、シリアに我々の軍隊を派遣すると決定したとのフェイクがあった。自分にとって、これはニュースだった。現行の法律によれば、大統領(の許可)なしでは不可能である。自分は誰もそこに派遣していない。

・以前、シリアの指導者、つまりシリア政府が我々に医師による支援を要請したことがある。自分は、わかった、我々の医師、まずに軍医の中で誰かが行くことを望めば、行くことになるが、今ではないと言った。なぜならば、我々は自分たちの問題で精いっぱいだからである。更にいわゆるパンデミックさえ終わっていない。コチャノヴァ共和国院(上院)議長とクハレフ・ミンスク市執行委員長(当館注:市長に相当)がインフルエンザとなり、ミンスクでは右へ左へと蔓延している。そのため、この状況では、我々はシリア人に対して医師による支援は提供できない。

(2/8 大統領府、Zerkalo)

●高官人事

・イゴリ・ブルィロ農業・食糧大臣(前農業・食糧第一次官)

・アンドレイ・イヴァネツ教育大臣(前科学アカデミー学術部門首席)

(2/10 大統領府)

【外交】

●仏露会談における両大統領のベラルーシに関する

やりとり

・マクロン仏大統領とプーチン露大統領は、ベラルーシにおける憲法改正案とルカシェンコのベラルーシ国内への核兵器配備に関する発言について協議。

・マクロン仏大統領は、共同記者会見で、「これに関してプーチン露大統領からの保証を得た」と発言。

(2/8 露タス通信、Zerkalo)

●ウクライナのドニエプル市役所、庁舎にベラルーシの白赤白の旧国旗を掲揚

2/9、ボリス・フィラトフ・ドニエプル市長は、ルカシェンコの反ウクライナ的発言に抗議する意味で、ベラルーシの旗として市役所に掲げられていた赤と緑の現国旗を、白赤白の旧国旗に差し替えたと発表。同日夕方、駐ウクライナ・ベラルーシ大使館はこのニュースに反応。同大使館は、国旗の差し替えを非難、同市長に対話を要求。

(2/9 Zerkalo)

●ラトビア議会広報部は、同国議会が、ベラルーシと国境を接している地域での非常事態体制を5/10まで延長するとの政府決定を承認したと発表。

(2/10 BPN)

●ベラルーシ外務省、ウクライナに抗議文を送付

ベラルーシ外務省は、ウクライナに対して、ドニエプル市役所に掲げられていたベラルーシの現国旗が白赤白の旧国旗に差し替えられたことに関して、抗議文を送付。ベラルーシ外務省によれば、これは「蛮行」であり「象徴への侮辱」であるとのこと。

(2/10 ベラルーシ外務省、Zerkalo)

●バルト三国、ベラルーシに対し、ウイーン文書の危機低減メカニズムを発動

・2/9、リトアニア、ラトビア及びエストニアは、ベラルーシに対して、軍事力を強化しているとして、ウイーン文書(欧州安全保障協力機構(OSCE)において採択された政治文書)の危機低減メカニズムを発動させた。これにより、ベラルーシは、バルト三国に対し、「通常ではなく、また予定されていない軍事行動」について48時間以内に情報提供しなければならない。

・ベラルーシ当局は、バルト三国に対し、OSCEのウイーン文書に基づきベラルーシ領土内での軍事活動に関して説明。回答は要求どおり48時間以内に出されたものの、バルト三国側からは不十分であると判断された。

(2/9、11、12 Zerkalo、ラジオ・フリー・ヨーロッパ、バルト三国各外務省)

【内政】

●中央選挙管理委員会は、憲法改正の国民投票において活動予定の投票所委員会の編成を終了。同委員会に野党の代表者は不在。

(2/7 Zerkalo)

●外国へ出国したベラルーシ人を欠席裁判で裁く法案の作成

・ゴラ捜査委員会委員長は、外国に出国したベラルーシ人に対する刑事事件の欠席裁判にかかる法案を作成すると発表。ゴラ委員長は、数か国がベラルーシで刑事告訴された人物の同国への引き渡しを拒否していると批判。

・チハノフスカヤ氏がこのような形式で告訴される可能性あり。

(2/9 捜査委員会、Zerkalo)

●当局から民間の団体・一般市民に対する強制捜査・逮捕等

2/11

・捜査委員会は、刑法第191条(「選挙権の行使、国民投票への参加あるいは中央選挙管理委員会の活動に対する妨害」)に基づき刑事訴訟を起こしたと発表。

・被告のうちの一人は、パヴェル・ラトウシュコ氏(元文化大臣で反ルカシェンコ派)のいとこアナトリー・ラトウシュコ氏。

(2/11 捜査委員会、Zerkalo)

【治安・軍事】

●ベラルーシから周辺国への不法移民

(1)2月7日～2月13日の動向

・ラトビア国境警備隊は、不法越境を試みた27人～49人を阻止。2021年8月10日にベラルーシとの国境地帯に非常事態が発令された後に不法越境を阻止された人数は合計5,956人。

・リトアニア内務省国境警備局は、不法越境を試みた0人～18人を阻止。2021年8月にベラルーシとの国境地帯に非常事態が発令された後に不法越境を阻止された人数は合計8,328人。

・ポーランド国境警備局は、不法越境を試みた2人～24人を阻止。本年、不法越境を阻止されたのは合計1,182人。また、不法移民及びベラルーシ当局者からポーランド当局に対し、投石等あり。

(2/7～2/13 BPN)

●露、人道支援目的でのベラルーシ軍のシリア派遣を承認

・露政府は、シリアでの人道支援のためにベラルーシ軍隊を配備することに関する合意案を承認。

・同草案によれば、ベラルーシ軍は最高で200人が、「戦闘地域外での人道支援目的に限定した措置の実施に関与することになる」。

(2/7 Zerkalo、露法律情報公式インターネットポータル)

●ウクライナ軍、ベラルーシ・露両国共同軍事演習「同盟の決意2022」と同時期に軍事演習を実施予定

2/7、タ方、レズニコフ・ウクライナ国防大臣は、ウ

クライナの報道機関「ウクラインシカ・プラヴダ」に対し、2/10-20、ウクライナ軍が、ベラルーシ・ロシア両国共同軍事演習「同盟の決意 2022」と並行して、起こり得る対外的な侵攻に準備するために、国内の様々な地域で特殊軍事演習を実施すると発言。

(2/8 Zerkalo、ウクラインシカ・プラヴダ)

●ラトビア機によるベラルーシ領空侵犯とされる事件の発生

(1) 国家国境委員会発表

・2/8 朝、ベラルーシ国家国境委員会は、ラトビア側からのベラルーシ領空侵犯を確認した。ラトビアの軽飛行機である An-2 が飛来してベラルーシ領内に 300m まで侵入し、国境検問地点「ウルバヌィ(当館注:ラトビアのダウガウピルス市の南東約 20km に所在)」周辺を飛行した後、ラトビアへ戻った。

・これはベラルーシ領空侵犯の最初の事例ではない。2021 年 12/4 には、国境検問地点ノヴァヤ・ルドニヤ付近のベラルーシ領にウクライナのヘリコプターが飛来しており、本年 1/24 には、(ブレスト州)マロリタ地区フメリシチェ村付近においてウクライナの無人航空機(UAV)による国境侵犯が確認されている。

(2) ラトビア側は否定

・2/8、ラトビア軍は、軽飛行機によるベラルーシ国境侵犯を否定。同国軍は公式ツイッターにおいて「空軍は、不法越境の防止において国境警備隊への支援を継続しており、An-2 によるラトビア・ベラルーシ国境周辺の飛行を実施した。ベラルーシ国家国境委員会は、ラトビア軍が(ベラルーシ)領空を侵犯したとして非難したが、GPS のデータは、領空侵犯がなかったことを示している」と発表した。

(2/8 国家国境委員会、BPN)

●ベラルーシ・米国両国軍参謀総長の電話会談

(1) ベラルーシ国防省発表

・2/10、米国側の主導により、グレヴィチ軍参謀総長兼国防第一次官(少将)とミリー米軍統合参謀本部議長(大将)の電話会談が行われた。

・会談では、安全保障問題が協議された。

(2) 本件に関する当地ニュースサイト BPN の報道

・バトラー米軍統合参謀本部報道官によれば、ミリー統合参謀本部議長とグレヴィチ参謀総長は、「地域の安全に関する喫緊の問題につき協議」した。同報道官は、「今次会談は、(状況を)誤認する恐れを減らし、欧州の安全保障の現状に関する理解を得るため、両国の参謀総長の間での情報交換を促進するものであった」とした上で、「双方は会談の詳細を公表しないことで合意した」と付言した。

・ベラルーシ・米国両国の軍トップの会談は、ベラルーシ・ロシア両国共同軍事演習「同盟の決意 2022」の初日に行われた。本演習は、ロシアとウクライナ及びウクライナを支持する西側諸国との間が緊迫している状況下で行われている。本演習の実働部分は 2/10-20 に、ベラルーシ・ロシア連合国家の即応兵力の点検という枠組みで実施されている。1 月中旬から、ロシアは活発にベラルーシに部隊や兵器を移動させた。移動された兵器には、対空ミサイルシステム「パンツィリ-S」、Su-35 多目的戦闘機、Su-25SM 攻撃機、地対空ミサイルシステム S-400「トリウムフ」等も含まれている。

(2/10 国防省、BPN)

【経済】

●オーストリア系の携帯電話事業者「A1」の取締役会長であるトーマス・アルノリデル氏は、APA 通信へのインタビューで、子会社の広報担当であるニコライ・ブレデレフ氏が拘束されても、自社はベラルーシ市場から撤退するつもりはないと発言。

(2/9 Zerkalo)

●1 月時点の年間インフレ率の発表

国家統計委員会は、ベラルーシの 1 月時点の年間インフレ率が 10%であると発表。同時に、食料品の価格は年率で 12%上昇。同委員会によれば、非食料品の価格は 9.3%、有料サービスは 9.1%それぞれ上昇。

(2/10 国家統計委員会、Zerkalo)

●2021 年の農産物の輸出総額の発表

・農業・食糧省は、昨年、ベラルーシが世界の 116 か国に 67 億ドルの食料を輸出したと発表。このうち独立国家共同体(CIS)諸国が 55 億ドル以上、CIS 諸国向け輸出の中でロシアが占める割合は 71.9%。

(2/11 農業・食糧省、Zerkalo)

当局は、「ベラルーシの国家機関」の職員が同男性を徴募したと主張。

(2/10 ウクライナ保安庁、Zerkalo)

(了)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の活動

(1)ベラルーシ・露共同軍事演習「同盟の決意 2022」に対する反応(2/10)

・ベラルーシ領土内での共同演習の開始後、当局は、ベラルーシ国民を戦争の思考に慣れさせるために、ニュースでの戦車の光景を日常化しようとしている。ベラルーシがこのような演習に参加する理由はない。

(2/10 チハノフスカヤ氏公式ホームページ)

【その他】

●崩壊したネミガの橋梁に代わる新橋梁の開通

2/9、重量 35トンの砕石を積んだ 6 台のダンプカーが、ネミガの新しい橋梁を試乗。無事、新橋梁は点検を合格。2/10 に新橋梁が開通。

(2/9 Zerkalo、スポーツニク・ベラルーシ)

●ベラルーシにおいて、2/15 から新型コロナワクチン接種証明書の新フォーマットが導入

保健省は、2/15 から、ベラルーシ国内において、新型コロナウイルスワクチン接種証明書の新しいフォーマットが導入されると発表。同フォーマットには、携帯アプリ「Путешествую без COVID-19」のための QR コードが掲載予定。

(2/9 保健省、Zerkalo)

●ウクライナでベラルーシの国家機関により徴募された男性が拘束

ウクライナ保安庁広報部は、テロ行為の実行及びキエフの公的機関のある建物の近くの車両への放火を計画したキエフ在住の男性が拘束されたと発表。